



生活やものづくりの学びNetニュース

巻頭言

生活やものづくりの学び, その大切さを発信する使命

生活やものづくりの学びネットワーク世話人代表
鈴木 明子 (広島大学)

本ネットワークは、「生活やものづくりの学び」が子どもの人間性を養う上で重要で不可欠であることを広く社会にアピールすることを目的として 13 年前に発足しました。これまで、会員の皆様の熱い思いと、多くの学・協会の支援のもと、子どもに求められる資質・能力、生活や暮らしの在り方、効果的な授業や教材の工夫、学習指導要領への向き合い方等々について検討と提言を行ってきました。しかしながら、様々な行政改革の中で、また子どもの全人的な育ちを推進する「生きる力」の育成においても、我々のその思いは届いていない感があります。社会環境、自然環境の変化も相まって、学校教育ばかりではなく、家庭教育や社会教育においても、子どもたちに必要な学びの本質を見失っているのではないかとさえ思えます。

ベースとする専門科学の意義を俯瞰して捉えることが考えられます。その際、生活者としての学びや全人的な成長発達に関わる要素やテーマを、他の専門領域や他教科の人たちと共有し、安易な迎合にならないように、各専門科学や教科独自の意義を理解し合う場とすることが大切ではないでしょうか。そのためには、研究者として実践家として、自分がよって立つ理論や科学的根拠を探究し続ける姿勢も必要でしょう。

人の成長・発達にとって、あるいは文化の継承・創造にとって、「生活やものづくりの学び」が内包する役割や意義についての認識を深めること、さらには人類が発展させてきた「生活」や「ものづくり」とは何かを問うことは、我々関係者の使命です。技術を開発することや技能を習得することの意義や「生活」や「技術」という概念に関する認識を、協働して深めていく、そのような活動の展開が重要であると考えています。

二つ目に、ネットワークに所属する個々の会員と学・協会の総意として、国や自治体の行政に働きかける機会と効果的な方策を検討し、実践することが重要と思われます。諸先輩方をはじめ会員の皆様からのご意見、ご協力をいただきますようお願いいたします。

そこで、本ネットワークが大切にしたい学びの本質をみつめ、それを発信する一人ひとりの使命を認識するとともに、発信方法を常にブラッシュアップしていくことも必要ではないかと思えます。その方策として、一つには、我々が関わる教育、研究の場において、自身が担当する教科目や

先日の能登半島地震では、多くの方が甚大な被害に見舞われました。被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、本ネットワークの趣旨に基づいて、関係の各学・協会からも様々な支援が提供されることを期待しております。大学受験目前に被災した高校生やその親が「目の前のことを一つずつ解決していくしかない」「子供の自立の一步になる」と語っていたことに一筋の光明をみる思いがしました。華々しい成果や効率主義が評価される中で、自分自身を振り返り、他者や環境と対話しながら価値観を更新していくことの大切さを改めて感じました。様々に苦悩の多い日々ではありますが、人間の英知を信じて、歩を止めずに進みたいと思います。

Contents

巻頭言1
報告 生活やものづくりの学びネットワーク 公開のフォーラム2~5
資料 布を用いた製作学習の教育的意義と学習支援6
事務局からのお知らせ7
「2023 年度 春の学習交流会」のご案内8

家庭科教師のための金融教育ワークショップ

—実践と体験を通じた教育方法の紹介—

コーディネーター 鎌田浩子（北海道教育大学釧路校）

はじめに

2023年9月30日（土）に公開フォーラム「家庭科教師のための金融教育ワークショップ—実践と体験を通じて教育方法の紹介—」がオンライン（Zoom）で開催されました。コロナ禍が落ち着きをみせ、気が付くと社会の動きが大きく変わっていました。Z世代、α世代などの用語が飛び交い、この世代が中学生、高校生になっています。また、家庭科の学習指導要領解説では、小学校では「物や金銭の使い方」として「こづかいなど児童に取り扱いが任された金融に着目して購入の時期や金額を考えたり、購入のための貯蓄をしたりして、無駄のない使い方をすることが必要である」、中学校では「計画的な金銭管理の必要性」として「生活に必要な物資・サービスの購入や支払い場 面を具体的に想定して学習を展開するよう配慮し、高等学校における長期的な経済計画や家計収支等についての学習につながるようにする」、高等学校「家庭基礎」では「生活における経済の計画」として「家計管理については、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする」と記されています。しかしながら、今回とりあげた「金融教育」は、わが国では日本銀行が2007年を「金融教育元年」と命名したことが始まりとされ、比較的新しい領域であり、学校教育では近年急速に進展しているものの、経済状況などは日々変化するもので、見通すことも難しく、具体的にどのように授業を行っていくか悩んでいらっしゃる先生方もおられるのではないかと思います。

そこで、今回のフォーラムでは、数多くの現場での実践への参画を行ってこられた盛永裕介先生（JAM ACADEMY 学長・金融教育プランナー）を講師にお迎えし、金融教育の重要性と学校教育への位置づけをはじめ、小・中・高等学校の各段階における生涯を通じた家計管理とリスク管理、さらには、現場で役立つ実践的な金融教育アクティビティの紹介をしていただくことにいたしました。

ここでは、盛永先生の講義を受けてのグループに分かれて行われたワークショップでの感想等を中心に報告したいと思います。なお、参加者は、38名（うち会員30名）でした。

フォーラムのスケジュール

13:30	開会のご挨拶と趣旨説明（堀内先生）
13:35～14:05	講義Ⅰ 金融教育の重要性と学校教育への位置づけ
14:05～14:35	ワークショップⅠ
14:35～14:45	講評（盛永先生）
14:45～15:15	講義Ⅱ 実践的なアクティビティの紹介
15:15～15:35	ワークショップⅡ
15:40～15:45	休憩
15:45～15:55	概要講評（盛永先生・鎌田）
15:55～16:00	「まとめ」と閉会のご挨拶（堀内先生）

1. 講義Ⅰ・ワークショップⅠ・講評

講義Ⅰでは、「金融教育の重要性と学校教育への位置づけ」として「金融教育の目的」「学校カリキュラムへの組み込み方法」「高等学校家庭科学習指導要領の改訂と金融教育」「小・中・高等学校年齢段階別に習得すべき金融リテラシー」の講義のあと、「おすすめの学習教材」として資産形成 NISA に関する冊子やネットの教材を紹介していただきました。

続いて、7つのグループに分かれ、各班にファシリテーターとして世話人に入っていただき Padlet を用いてワークショップⅠを行いました。盛永先生からは、「家庭科に金融教育を組み込む効果的な方法は何か？」「金融教育の授業を通じて、学生にどのようなスキルや知識を提供することを目指すべきか？」「金融教育は学校のカリキュラムでどのように位置づけるべきか」の3つの課題がだされました。

講評では、1グループでは、小学生を対象とした金融教育について、遠足などのお菓子で予算を決めて自分で買うことやこづかい帳などをつけるなど身近なことから始めるのではという意見や生活科など低学年から教えてもよいのではという意見も出されていましたが、盛永先生からは「まさに小学生は、収支の管理ができる基礎を身につけることが大切な時期である」というコメントがありました。グループ2からは、中学生でも課金や押し活で大金を使っていることが話題になっていましたが、「実際にどこからどれだけのお金が入ってきて、何にどれだけ使っているかを明らかにしていくことがこの時期には重要である」とのコメントがありました。3グループからは、カリキュラムマネジメントで構成される方が生徒の分断した知識をまとめるということが大切であるという意見がだされておりましたが、「もちろんカリキュラムマネジメントは重要といえるが、旗を揚げる先生がなかなか

少ないのではないか」とのコメントがありました。グループ4では、特に高等学校では、社会保障、福祉とのからみで生活の収入と支出をどう管理していくか、リスク管理の方法について考えていくことが大切という意見がだされており、「税金のことを学ぶのも大切であるが、実際に働いてみて初めて身をもってわかることも多く、むしろ、いかに自分の身を守るのか、資産がマイナスにならないためにはどうしたらよいかについて学ぶことが大切である」とのコメントがありました。5グループはゲーム教材の使用について話題となりましたが、「企業が作成したゲームには大変よく作られたものがあり、生徒は楽しみながら学べるので有効ではあるが、企業によって内容に偏りがある場合もあるので、何を補完するかをしっかりと押さえて指導することが重要」とのコメントがありました。6グループでは、投資を教えるのは怖いという意見がありました。これについては、「中途半端に教えてしまうと生徒が間違った行動をとってしまうので、専門家を講師に招いたり、教師自身も100円でもよいので投資をしてみ、実際に失敗したり成功したりした話をするのが現実的ではないか」とのコメントがありました。グループ7では、シミュレーションをいかにリアリティに落としこめるかということが話合われていましたが、「シミュレーションは概算値で作られたもので、実際には様々なライフイベントがあり、これは概算であるということ伝えることが大切である」との講評がありました。

2. 講義Ⅱ及びワークショップⅡ・概要講評

講義Ⅱでは、講義1を踏まえてより実践的なアクティビティの紹介がありました。実践的なアクティビティでは、まず導入で「お金の身近さ」を気づかせ、次に経験させる(シミュレーション、ロールプレイング、ゲームなど)、最後にリスクの説明を徹底する、という3段階を経ることが有効であるとお話でした。また、いきなり「資産形成」の話をして興味を持って話を聞く学生は少ないのが現実で、おこづかいの管理、電子マネー、課金、キャリア形成など身近なテーマから導入することが有効であるとのことでした。

そして、参加型4択クイズの後、「成長を見抜け!株価ダービー」という①任天堂②JR東日本③トヨタ④OKWABEの4社の6年間の株価変動を振り返り、各々の株式会社の株式の変動理由について考察する経験的アクティビティの紹介がありました。株式を体験していない者にとっても、株価が、コロナ禍を始めとする社会的背景と大きく連動していることが理解できました。さらに、投資詐欺、闇バイトなどのアクティビティの紹介がありました。

ワークショップⅡでは、ワークショップⅠと同様「アクティビティの感想 児童や生徒に家計管理と資産形成の基本を教える際、どのような教材やアクティビティが効果的か」「金融教育に関する授業を行う際に考慮する点は何か」を課題としてグループディスカッションを行いました。

概要講評は、盛永先生に鎌田も加わり行いました。大きなテーマは2つありました。まず、「投資に懐疑的な教員が授業でやらなければならないのが難しい。」というものです。これは多くの先生方が感じられていることであると思います。アンケートに「私自身は積極的に勧めたいとは思いません。ただ正しい理解は不可欠ですね。」とありましたが、まさにこれが、今回のフォーラムの成果ではないかと感じました。

次に、「リスク・リターンの話で、そもそもリスクをとる余裕がない生徒にどのように教えるのか?」というものです。これについては、盛永氏もそもそも投資は余剰資金で行うものであると考えておられ、中学生とか高校生にいきなり投資の話をするのではなく、「将来職業についてどれくらい稼ぐことができるのか。そしていくら稼いでどれくらい余剰資金がでて、そのうちどれだけを投資するのか。また仕事をして稼ぐためには、どのようなスキルを身につけるのか、そのためには今、何が必要か等キャリア教育としっかり結びつけることが大切である」との回答がありました。

最後に盛永先生から、「金融教育は、お金の役割、お金の重み、お金の管理についてまず小学校から学習すること、また学校だけでできるものではなく、家庭との接続も重要である」というまとめがありました。

3. まとめと閉会のご挨拶

最後に世話人代表の堀内かおる先生から、以下のようなまとめと閉会のご挨拶がありました。本日は、とても楽しくなおかつアクティビティを通して、たくさんの深い気づきや学びがありました。まず、お金の運用について考えることは、人生や生き方について考えることだと感じました。生活設計というのは家庭科の特に高等学校の内容ですが、小学生の高学年から、中学生、高校生にそしてその後の人生の中で、お金の価値の基礎になる部分を小学校で学ぶのだと改めて認識しました。そして、教員が関心をもって金融について勉強していくことが大変必要になってきている時代であり、これからの子どもたちに何を伝えて気づかせていくかということ考えながら、教師自身も自分の問題として、重ね合わせて考えていく機会になるのだと思いながら本日の様々なアクティビティとディスカッションを聞かせていただきました。本日は貴重な学びの場となったことを盛永先生に感謝いたします。

おわりに

フォーラム終了後のアンケートも参加者の約8割の方からご回答いただき、すべて、有意義であった、参考になった等の内容でした。今回のフォーラムが先生方に、金融教育に取り組むきっかけとなったり、金融教育の実践を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、登壇いただきました盛永先生、参加者のみなさま、ご協力いただきました世話人の先生方をはじめみなさまに御礼申し上げます。

(文責: 鎌田 浩子)

家庭科教師のための金融教育ワークショップ

—実践と体験を通じた教育方法の紹介—

講師 盛永裕介 (JAM ACADEMY 学長・金融教育プランナー)

1. 金融教育の重要性と学校教育への位置づけ

キャッシュレス化が進む現代において、お金の価値が「見えない化」しており、お金を使えば減るといった直感的な感覚が薄れてきています。さらに、「仮想通貨で億万長者」のような、楽しんで稼ぐことを持ち上げる風潮や、それに乘じた利殖や不正取引などの金融犯罪が増加しています。

2022年4月から、高校家庭科では資産形成に関する内容が必修化されました。高等学校学習指導要領(平成30年告示)家庭編では、貯金、民間保険、株式、債券、投資信託などの基本的な金融商品の特徴(メリットとデメリット)や、資産形成の視点が含まれています。これにより、高校生はリスクとリターンを理解し、日常生活での適切な資産管理のスキルを身につけることが期待されています。成年年齢18歳に達すると、自らの意思で様々な契約ができるようになりますが、契約や預貯金、ローンなど、生活民法や生活倫理についての理解が必要です。投資詐欺や金融トラブルから身を守り、生涯にわたる資産形成・管理をするためにも、金融リテラシーを高めることは不可欠です。

しかし、高校生に求められる金融リテラシーのレベルは高く、本フォーラムでも「高校から金融教育を始めるのは遅すぎるのではないか?」「高校だけでは資産形成の授業時間を確保できない。」という声があがりました。高校家庭科だけでは授業時数が限られているため、小学校から段階的に金融教育を取り入れること、また、教科等横断的な視点に立ち、総合的な学習を中心に金融教育に関する内容をカリキュラムに組み込むことが重要です。

2. 生涯を通じた家計管理とリスク管理

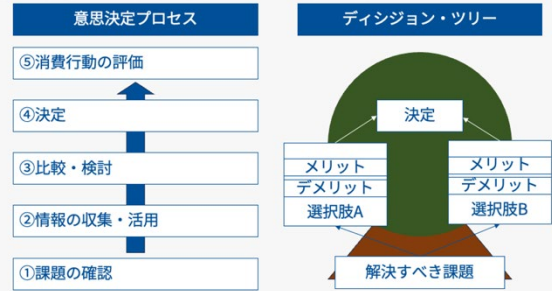
「金融教育は何から始めるべきか」という質問をよく受けます。まず考えるべきは、お金の役割や価値を理解し、お金をどのように使うかを合理的に意思決定すること、すなわちお金の価値判断の育成することです。

近年、低い年齢の子どもたちがスマホを持ち始めることが多くなり、オンラインゲームで高額な課金をしてしまうトラブルが後を絶ちません。「もっと強くなりたい」「ほしいキャラクターが当たるかもしれない」といった理由でガチャ課金するケースも多いです。

賢いお金の使い方を身につけるには、ディシジョン・ツリーを用いて、解決すべき課題と行動を明確にし、選択肢

1 合理的意思決定

合理的意思決定とは、目的を達成するための最良の選択をするプロセスのこと。



を比較分析、最良な選択を合理的に行う考え方を習慣づけていくことが有効です。

中学生になると、おこづかい管理や買い物の経験も増えるため、将来の自立に向けて、家計や生活設計に関する理解を深める段階です。キャリア教育と連携し、興味のある職業の平均年収や手取り金額を把握し、理想のライフプラン実現のために必要な貯金額を計算するなど、主体的に情報を収集し分析することが求められます。

高校生では、社会人として自立するための基本的な能力を身につけます。先述の通り、騙されないためのお金の知識を習得し、より豊かに生きるための選択肢として資産形成・管理について理解を深めることが重要です。

2 年齢別に習得すべき金融リテラシー

年齢別	習得すべき内容
小学生	買い物、おこづかい、お年玉、手伝いなどの体験を通じて、お金に関わる経験・知識・技能を身に付け、社会の中で生きていく力の素地を身に付ける。 【例1】おこづかい帳をつける。 【例2】商品の選び方を知り、工夫して買い物ができるようにする。 【例3】貯蓄の意義を理解し、計画的に貯蓄する習慣を身に付ける。 お金の価値と役割(価値判断力)
中学生	おこづかいの管理や買い物の経験も増え、家計や生活設計について理解し、将来の自立に向けた基本的な力を養う。 【例1】家計の収入 【例2】支出について理解を深める。 【例3】職業体験などを通じて、勤労を実感し、就きたい職業について考え、情報を収集する。 キャッシュレス決済、オンラインゲーム課金
高校生	生活設計の重要性や社会的責任について理解し、社会人として自立するための基礎的な能力を養う。 【例1】長期的な資金管理の大切さを理解する。 【例2】進路選択などを通じて、意思決定の重要性を理解する。 お金の価値と役割(価値判断力)

出所：政府広報オンライン「『金融リテラシー』って何？基礎知識をつけておきたいお金の知識と判断力」を基に盛永が追記作成

3. ワークショップ I

ワークショップ I では、家庭科のカリキュラムに金融教育を効果的に組み込む方法、その教育を通じて学生に提供すべきスキルや知識、および学校教育全体における金融教育の適切な位置づけについて、グループディスカッションを行いました。

特に、キャッシュレス社会におけるお金の管理方法や教育の必要性に関する議論は印象に残っています。小学生には実際のお金を使った経験を通してお金の価値観を学ばせ

ること、中高生にはデジタル時代の消費行動（ゲームやオンラインショッピングなど）に対する理解を深めること、さらに社会保障や社会福祉との連携を考慮した収支管理の重要性について多くの話題が挙がりました。総じて、児童・生徒の発達段階に応じた金融教育の展開が必要であり、家庭や地域社会と連携することが今後の課題であると考えられます。

4. 実践的な金融教育アクティビティの紹介

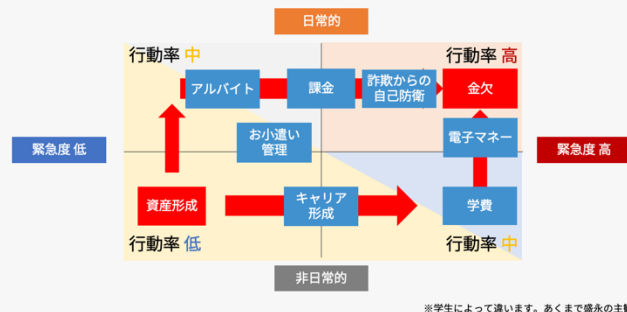
【ポイント① 日常/緊急度マトリクス】

児童・生徒の多くは、「お金の授業」と聞くと、堅苦しく難しい内容をイメージしがちです。そのため、授業の導入部では、生徒が興味・関心を持ちやすい工夫が必要です。例えば、高校生を対象とした場合、「資産形成」のテーマは生徒にとって非日常的で緊急度が低く感じます。「資産形成が重要な理由は…」「投資信託とは…」といったテーマから授業を始めると、児童・生徒は興味・関心を持たず、すぐに飽きてしまいます。成年年齢に関する話題やアプリゲームの課金、アルバイトなど、生徒にとって身近な内容を資産形成と結びつけることが、興味・関心を引き出し、行動率を高める有効なアプローチです。

3 生涯を通じた家計管理とリスク管理（高校）

神奈川県、私立高校

一方、いきなり「資産形成」のお話をしても、興味を持って話を聞く生徒は少ないです。



※学生によって違います。あくまで盛永の主観です。

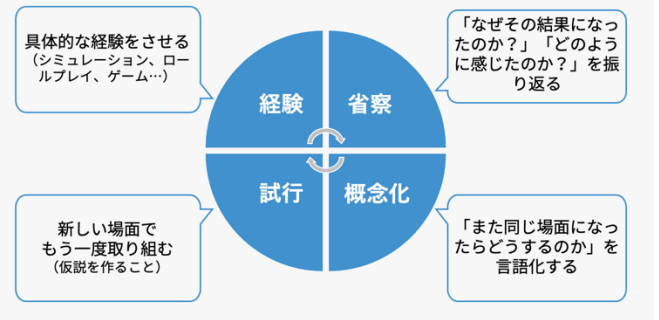
【ポイント② 経験学習】

経験学習を通じて、シミュレーションやロールプレイ、ゲームといった具体的な経験をもとに、その経験を省察し、概念化、試行を繰り返して学習を深めます。単に経験するだけではなく、例えばワークシートを使用して「なぜその結果になったのか」を考察し、話し合いの活動を通じて「もし同じ状況に再び遭遇したらどのように対処するか」を生徒に考えさせ、仮説をもとに試行を繰り返すことで、より効果的な学びが促進されます。

これらのポイントを踏まえ、今回のワークショップでは参加者の皆様に、高校家庭科でのアクティビティ事例を体験していただきました。

まず、人生100年時代に必要な金額、平均生涯年収、預貯金がどれくらい増えるかなど、参加型の4択クイズを通じて進めました。続いて、投資の擬似体験として「あなたが100万円持っていたら、どの企業に投資しますか？」という問いかけで株式投資のシミュレーションゲームを実施

4 経験学習

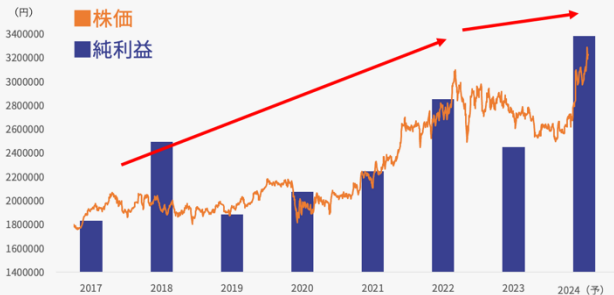


しました。株価チャートの動きを視覚的に示すことで、株価が変動する時に感じる感情やリスク・リターンの考え方を実体験に基づいて理解を深められます。

一方、「投資は楽しい」という感覚だけで授業が終了してしまえば、表面的な理解にとどまってしまう。株価が上昇・下落した要因を考察し、投資のメカニズムを理解することが重要です。最後に、アクティビティからクレジットカードや投資詐欺にどのように話を繋げるのかを解説しました。

5 実践的な金融教育アクティビティの紹介

業績の向上=安定して利益を出し続けている→利益が出るならトヨタの株式が欲しい!



5. ワークショップⅡ

ワークショップⅡでは、児童や生徒に家計管理と資産形成の基本を教える際に効果的な教材やアクティビティ、金融教育の授業を実施する上で考慮すべき点について、グループディスカッションを行いました。

実生活で身近な話題や体験、社会情勢に絡めたアクティビティを取り入れると効果的ではないかという話題が印象的でした。また、家庭環境やプライバシーへの配慮、学生の価値観の尊重、ライフプランニングを含めた教育の展開が、授業実施にあたって考慮すべき重要な点として挙げられました。

6. おわりに

本フォーラムでは、金融教育の必要性と効果的な教育方法について紹介し、議論を深めました。金融リテラシーは、現代社会における若者の自立と、責任ある市民としての成長に不可欠です。今後も、教育現場で金融教育をさらに充実させることが重要であると考えます。

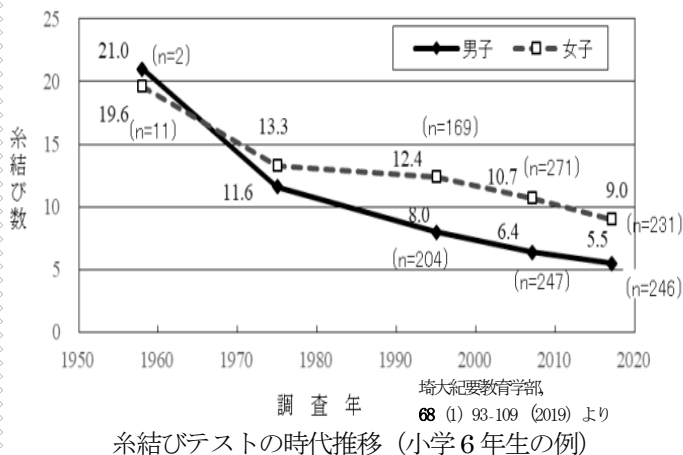
(文責：盛永 裕介)

1. 製作学習の現状

布を用いた製作学習は、児童・生徒のスキルが追いつかず計画通りに進行しない、個人差が大きく回を重ねるごとに進度の差が拡大していきます。1時間単位で区切りをつけて進めていく教育プログラムが多い中で当てはまりの悪い題材といえます。

下図は、小学6年生に5分間糸結びを行わせ、その完成数の平均値の年代推移を男女別に示したものです。糸結び数から推察される児童・生徒の手指の巧緻性の低下は、手指を使う経験の不足によると考えます。製作学習において縫製技能の低下は深刻な問題です。

布を用いた製作では、「生活に役立つこと・ものを効率よく仕上げること」が目指されてきました。縫製技能の必要性は薄まっており、少ない時間で完成させたものはそれなりの体験にしかありません。本稿では製作学習の教育的意義について以下3点について解説します。



2. 製作学習の教育的意義

①手指の巧緻性の向上

手指を使うことでヒトは文明を発展させてきました。手指を使うことは脳を刺激するとされ、さまざまな訓練にも用いられています。糸結びテストと併せて実施した調査からは、手指の巧緻性は生活活動や遊びへの参加度、手指を使う他の学習など様々な活動への取り組み姿勢と関連することが分かりました¹⁾。

製作学習の後には糸結びの数は上昇しますので、製作学習を通して手指の巧緻性の向上が見込まれます。

②自己効力感向上の可能性

自己効力感とは「ある目標に到達するために見通しをつけ、適切な行動を成し遂げられるという予期および確信」をいいます。刺し子は、単純な繰り返し作業とみなされるかもしれませんが、刺し子で模様を埋め尽くす「花びんし

き」の製作に取り組んだ中学2年生の調査より、生徒自身が学習効果を目で認識し、興味関心を維持させ、刺し子への取り組み姿勢は自己効力感と関連することが明らかになっています²⁾。

③集中し夢中になる体験（フロー体験）の機会

近年の研究において、集中し夢中になる体験ができることを新たな意義として報告しています³⁾など。中学1年生に自由なデザインで縫わせた刺し子学習の調査では、8時間の終了時点で、縫うことが楽しい、集中している、時間が早く過ぎる、悩みが気にならないに肯定的な回答でした。その後の調査分析から、こうした体験は、学習後の生活実践に結びつくこと、裁縫に限らない創造的態度の形成と関わるということが明らかになりました。

とりわけ、製作物が充実している生徒に効果的なことから、技能指導の重要性も示されました。技能の定着には5時間程度を要すること、玉結び・玉どめの定着が指導のカギになるといえます。



3. 動画教材による製作学習の支援

技能の維持・向上を支え、楽しい製作学習の実現のため、基礎縫い動画を公開してきました。<https://hclothing.org/> または <https://www.youtube.com/@user-kw8gb1ys4g>

手元でのやり方の閲覧によって、技能向上とつまずきの減少を実証しています⁴⁾。別途、中学校のトートバッグ製作に動画教材を活用した実践からは教師の指導に変化がみられることも確認しています⁵⁾。生徒の2/3程度は動画をみて製作を進められる分、教師は進行の遅い生徒の指導に重点を置くことができました。

基礎縫い動画は、コロナ禍に学習支援教材として各方面で紹介されました。現教科書には標準搭載されているので役目を終えたともいえますが、現在も多くの閲覧を得ています。今後は、衣生活全体を視野に置き体験を促す動画教材を制作していく計画です。

ものづくりの機会が減っている時代だからこそ、製作学習が役割を担えと考え、作品が完成した時の子どもたちの輝く表情を見ているとそうした思いが募ります。

<参考文献> 1) 川端博子. 日本衣服学会誌 52 (1) 7-10 (2008)

2) 川端博子, 鳴海多恵子. 家教誌 54 (4) 248-257 (2012)

3) 山中大子, 實達佑美, 川端博子. 家教誌 64 23-33 (2021)

4) 高橋美登梨, 西村綾世, 川端博子. 家教誌 59 135-146 (2016)

5) 川端博子, 中谷俊裕, 他2名. 教育情報研究 32 (3) 3-12 (2016)

誌面臨時総会

世話人会(2023. 11. 23.)にて、今後の本ネットワーク運営体制強化のため、会則7条(組織・運営)の2)世話人会①に基づき、産業教育研究連盟から後藤直先生に世話人会メンバーとして加わっていただくことを承認しました。そこで紙面臨時総会として、会員の皆様にお諮りいたします。本件についてご意見等ございましたら、3月末日までに、世話人代表までご連絡いただきますようお願いいたします。世話人代表 鈴木 明子

事務局からのお知らせ

1. 学習交流会等への活動補助費を支給しております。

本ネットワークでは、各都道府県での学習交流会・講演会・勉強会等の活動を支援しております。

本年度も例年どおり活動補助費(1万円)を支給しております。希望される場合は事務局までお申し出ください。

2. メーリングリスト(ML)にメールアドレスを登録し、情報発信・交換等に活用ください。

MLを活用して、迅速な情報配信や交流をはかりたいと考えております。多くの皆様の登録・活用をお願いいたします。総会や学習交流会、各関連団体からの研修会等のご案内や会員同士の意見交換等並びに事務局からの連絡を行っています。ぜひご登録をお願いいたします。またMLに登録することで各種情報を添付ファイルをつけて配信することができます。情報の配信に不慣れな場合は、事務局にお知らせいただければ事務局から配信いたします。

MLへのメールアドレス登録及び変更は、事務局(seikatsu_nt@yahoo.co.jp)までお願いいたします。

MLアドレス: seikatsunetmail-ml.seikatsunet.com@ml.seikatsunet.com

3. 新版ビジュアルパンフレット(2019年4月版)を活用ください

新版ビジュアルパンフレットは、新学習指導要領への対応及び資料を更新するなど大幅な改定を行い、内容を充実させています。家庭科、技術・家庭科の学びの重要性を理解していただく資料として、すでに大学の授業や研究会、情宣活動等に活用いただいております。

パンフレットがご入用な方は事務局までご連絡ください。

・パンフレット代: 無償

・送料: 会員拡大用に使用する際は無料

大学等の授業で活用される場合は30部迄は無料、31部以上の場合は着払で送料をご負担いただきます。

なお、HPにパンフレットのデータが掲載されています。ご自由に印刷してお使いください。

4. ニュースレター送付先住所の変更について

勤務先の異動、引っ越し等でニュースレター送付先住所が変更になった場合はお早めに事務局までご連絡ください。なお、送付先は、原則自宅住所でお願いします。

5. 退会届の提出について

退会される場合は「退会届」の提出をお願いしております。ホームページに「退会届」の書式が掲載されておりますので、ご記入の上、メール添付か事務局への郵送でご提出ください。なお、年度ごとの退会となりますので、年会費をお納めの上、退会をお願いします。

事務局メールアドレス: seikatsu_nt@yahoo.co.jp

ホームページ URL: <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>

会員継続のお願いと新規入会のお誘い

★本会は、2010年の設立以来、経験豊かな会員の方々から、これからの家庭科、技術・家庭科を担う若い会員の方々まで、会員の皆様に支えていただき今日まで活動を継続してまいりました。これからも、皆様のお力添えをいただきながら、生活やものづくりの学びの意義と授業実践の成果を発信・共有してまいります。家庭科、技術・家庭科の今後の発展のためには、これらの重要性について声をあげていく必要があります。入会届やリーフレット・パンフレット等はホームページからダウンロードできます。是非本ネットワークにご入会の上、一緒に応援してまいりますよう、心よりお願い申し上げます。世話人代表 鈴木 明子

生活やものづくりの学びネットワーク

春の学習交流会

技術科と家庭科における観点別評価と 学習指導の課題

参加費
無料

日時：3月23日(土) 13:30～16:00
実施方法：オンライン(Zoom)

2023年度から高校でも観点別評価が導入され、学校現場からは、授業づくりに対する評価方法の戸惑いも生まれています。新学習指導要領の基で技術科と家庭科がどのような学習指導の課題を抱えているのか、指導計画と観点別評価を中心に、中学校技術科、家庭科及び高等学校家庭科の指導に関わっている3人の先生方から報告いただき、技術科と家庭科の今日的課題を共有し、新しい時代に向けたその方向性と指導と評価の要点を参加者の皆さんとともに考えていきます。

【実践報告】

◎「教育条件整備と教育課程の自主編成からの報告」

北海道遠軽町立遠軽中学校 望の岡分校 技術科教諭 井川大介先生

◎「被服製作（手ぬぐい小物製作）の授業と評価について」

東京都小金井市立小金井第一中学校 家庭科教諭 尾形美和子先生

◎「評価の実際と授業実践から考える思考力とは」

千葉県立幕張総合高等学校 家庭科教諭 白石広子先生

※実践報告の後は3グループに分かれてディスカッションを行います。

お申込み

参加を希望される方は3月15日(金)までに以下のフォーム

<https://forms.gle/xEpspXex8zwpr1DN8>

またはQRコードからお申し込み下さい。

参加方法はメールにて3月20日頃までにご連絡いたします。



お問い合わせ

生活やものづくりの学びネットワーク事務局

E-mail: seikatsu_nt@yahoo.co.jp

Webサイト: <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>